

## 令和8年3月8日(日) 《午前》 「日本の近現代史②」

第14期Bコース研修生は、「国際秩序の変化—第一次世界大戦の勃発から第二次世界大戦の終結まで—」をテーマに、「日本の近現代史②」の研修を行いました。研修生は、事前に学習動画を視聴し、課題に取り組んだ上で、当日の研修に臨みました。

Bコース研修生は、今後、アメリカ合衆国及びカナダへの留学を予定しています。事前学習では、さまざまな視点から歴史的事象を捉え、自分なりの考えをまとめて研修に参加しました。当日は、5人程度のグループに分かれ、各自が事前課題の内容を発表し合い、意見交換を行いました。さらに、グループでの協議内容を全体場で共有し、理解を深めていきました。

研修生が取り上げたテーマは、「ファシズム」「真珠湾攻撃」「日系人の強制収容」「日本における外国人への対応」「ハル＝ノート」「原爆投下」など、多岐にわたりました。これらの歴史的事象を踏まえながら、日本が経験してきた課題や選択について考えるとともに、今後、実際に日本の防衛や国際社会における役割をどのように考えていくべきかについても、内容の濃い協議が行われました。

留学先では、現地の人々だけでなく、他の国や地域からの留学生からも、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての歴史について質問を受けることが予想されます。研修生はそのことを意識しながら、日本の歴史を自分の言葉で説明できるよう、熱心に研修に取り組んでいました。



## 令和8年3月8日(日) 《午後》 「ゼミナール②」

第14期Bコース研修生は、3月8日(日)に第2回ゼミナール研究を行いました。今回は、第1回ゼミナール研究で発表・協議した「研究テーマを考えよう(その2)」を踏まえ、各自が作成した「ゼミナール研究アウトライン」について、グループで発表と協議を行いました。

研修では、①研究テーマと研究の目的、②研究仮説、③現状、④課題について整理した内容を、一人ずつ発表しました。聞き手となる研修生は、発表内容について「疑問点や改善点」を赤色の付箋、「優れている点」を青色の付箋に記入し、発表者に伝えながら意見交換を行いました。発表者は質問に答え、グループ全体で改善点や今後の方向性について話し合うなど、一人15分ずつ時間をかけて丁寧に協議を進めました。

研修生たちは、自分の研究テーマや目的が地球規模の課題解決につながる内容になっているか、現状や課題の捉え方は十分かといった点について、時間いっぱい意見を交わしました。対話を重ねる中で、ゼミナール研究が着実に深まっていく様子がうかがえました。

研修の最後には、協議を通して学んだことや今後の取組の方向性について振り返り、「ゼミナール研究振り返りシート」に記入して記録に残しました。

今後、研修生は今回の協議を踏まえてアウトラインをさらに修正・改善し、第3回、第4回のゼミナール研究での発表や協議を重ねながら、研究内容を一層深めていきます。

